

『事故物件』作…ポチ子

男1…靈感なし。事故物件に住み始めた。

男2…靈感あり。男1の友人。小心者。

女1…事故物件に住み着く幽霊。

男3…幽霊の元カレ。

男1「さあ、あがってあがって」

男2「お前、ほんとやめとけよな」

男1「なにが？」

男2「事故物件に住むなんてさ…」

男1「だって、こんな都会の1等地に、1LDKで家賃1万だぜ？

住むしかないでしょ！」

男2「いやいや…普通は住まないって。幽霊とか俺マジ無理な

んだよ…。ってか、この部屋ってどんな事故物件なんだ？」

男1「ああ、不動産屋の話によると、前の家主が元カノにストーカ

ーされてたらしくてさ…」

男3、ドアを開ける仕草

男3 「ふう・・・ただいまー・・・」

女1 「お帰りなさい、遅かったわね」

男3 「うわああ！？なんでいるんだよ、お前！！」

女1 「玄関に飾ってあった写真。これが新しい彼女？」

女1、写真立てを見る

写真を投げ捨てる女1

女1 「私を捨てて、他の女と付き合うなんて・・・」

男3 「お前、なんでナイフなんか持ってたんだよっ」

女1 「許さない・・・許さない・・・」

男3 「やめろ・・・やめろ・・・くるな！！くるなって言ってんだ

ろ！！」

女1 「ふっ！！」

男3 「うっ・・・」

女1が男1を刺し、男1が倒れる。

女1 「あなたが・・・わるいんだから・・・」

男1 「勝手に作った合鍵で忍び込んだ元カノに刺されて、刺した元

カノもこの部屋で自殺したんだってさ」

男2 「ガチじゃん・・・」

男1 「んな、びびることないだろ。死んでるわけだし、幽霊が殺しに来るわけでもないしな」

笑う男1

後ろにナイフを持った女1

女1 「許さない・・・許さない・・・」

男2 「へっ？え、だれ！？」

男1 「どうしたんだよ、急に驚いた顔して。」

男2 「え、なんか女の人がいるんだけど・・・お前の彼女？」

男1 「は？何言ってるの？今日はお前しか呼んでないけど」

男2 「だってお前の後ろに女の人がナイフ持って・・・ナイフ持ってる？」

女1、ナイフを振りかぶる

女1 「許さない！！」

男2 「危ない！！」

男2は男1の腕を引っ張る

男1 「うお！！なんだよ、いってーな。いきなり腕引っ張んなよ。」

男2 「お、お、おい、やばいって！！」

男1 「なにが」

男2 「すげー殺しに来てる！」

男1 「は？」

男2 「幽霊めっちゃ殺しに来てるんだって！お前のこと！！」

男1 「なに言ってるんだよ。ビビりにもほどがあるだろ」

男2 「ほんとなんだって！そこにナイフ持った女の人が！！」

男1 「は？いるわけねーだろ？」

男2 「いるんだって！！ほら、またナイフ振りかぶってっ！！」

女1 「許さない・・・」

後ろを振り返る男1

女1が再びナイフを振りかぶる

男1 「何言ってるんだよ、おら！！」

男1、女1を殴る

女1 「きゃあ！！」

男2 「ええ！？今、お前、幽霊殴った！？見えてんの！？」

男1 「見えてるって？」

男2 「幽霊だよ！」

男1 「お前まだそのネタ引っ張るの？いくら言われたって俺はビビらないって！」

男2 「いやでも、さっき「おら！！」って言って殴ってたよね？」

男1 「は？言ってるよ。」

女1 起き上がり、再び男1を攻撃

女1 「うっ・・・殺してやる・・・はああああ！」

男1 「くっ、おら！！」

男1、女1の首に腕をあてて締め上げる

女1 「うう！ぐる・・・じい・・・。」

男2 「次は締め技！？いや、確実に見えてるよね？」

女1 「はな・・・して・・・。」

男2 「幽霊めちゃめちゃ苦しそうなんだけど！」

男1 「さつきからなんの話だよ、おら！！」

男1、腕をさらに締め上げる。

女1 「うう・・・たすけて・・・」

男2 「かわいそうかわいそう。離してあげて！！」

男1 「離すってなにを？」

男2 「いいから、とにかく腕おろせて！！」

男1、女1を離す

女1 「ごほごほ・・・」

男2 「ちょっと大丈夫？痛くない？」

男1 「俺をビビらそうと必死なお前のために、今日はうまい飯でも

作ってやるよ！」

男2 「ふざけんな！！お前、女の子に暴力振るうなんて最低だな！！」

— 終わり —